

3 結婚について

(1) 結婚についての考え方

【分析のまとめ】

県調査では結婚について、各年ともに「家庭を持ち、子どもを育てるためにも結婚したほうがよい」という考えが最も多くみられます。「ひとり立ちできればあえてしなくてもよい」という考えは平成 12 年から平成 21 年にかけて大きく減少しています。

県調査の時系列変化をみると、「社会通念上当然のことだから結婚したほうがよい」、「ひとり立ちできればあえて結婚しなくてもよい」と答えた人の割合は年々減少しており、それぞれ平成 21 年には 4.4%、7.1%となっています。結婚に対する価値観が徐々に変化していることがうかがえます。

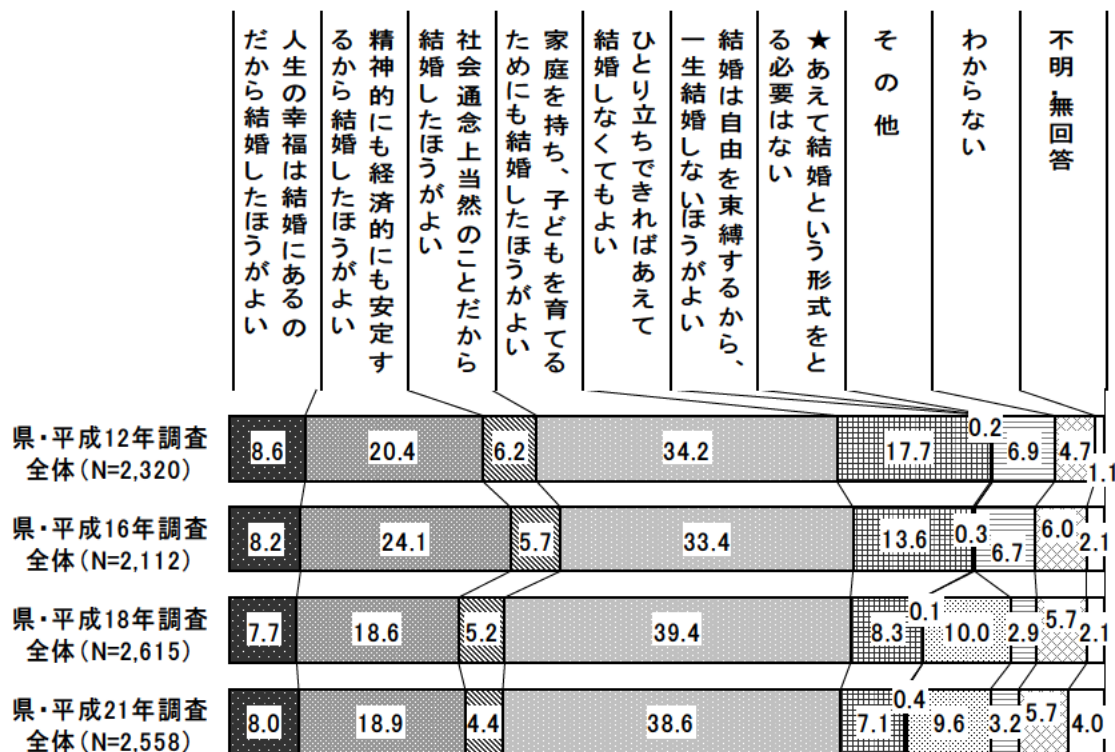
全体的に最も高いのは、「家庭を持ち、子どもを育てるためにも結婚したほうがよい」と答えた人の割合で、平成 12 年から平成 21 年にかけて増減を繰り返しているものの、増加傾向にありますが、平成 18 年に比べ平成 21 年の方が減少し、38.6%となっています。

国調査の結果をみても、結婚は個人の自由である、という考え方に肯定的な割合は約 7 割となっています。

男女別にみると、「精神的にも経済的にも安定するから結婚したほうがよい」、「家庭を持ち、子どもを育てるためにも結婚したほうがよい」と答えた人の割合は、平成 18 年に比べ平成 21 年の方が男性では減少し、女性では増加しています。

問7. 結婚についていろいろな考え方がありますが、あなたはどのように思いますか。次の中から1つ選んで○印をつけてください。

問7 結婚についての考え方 【全体】



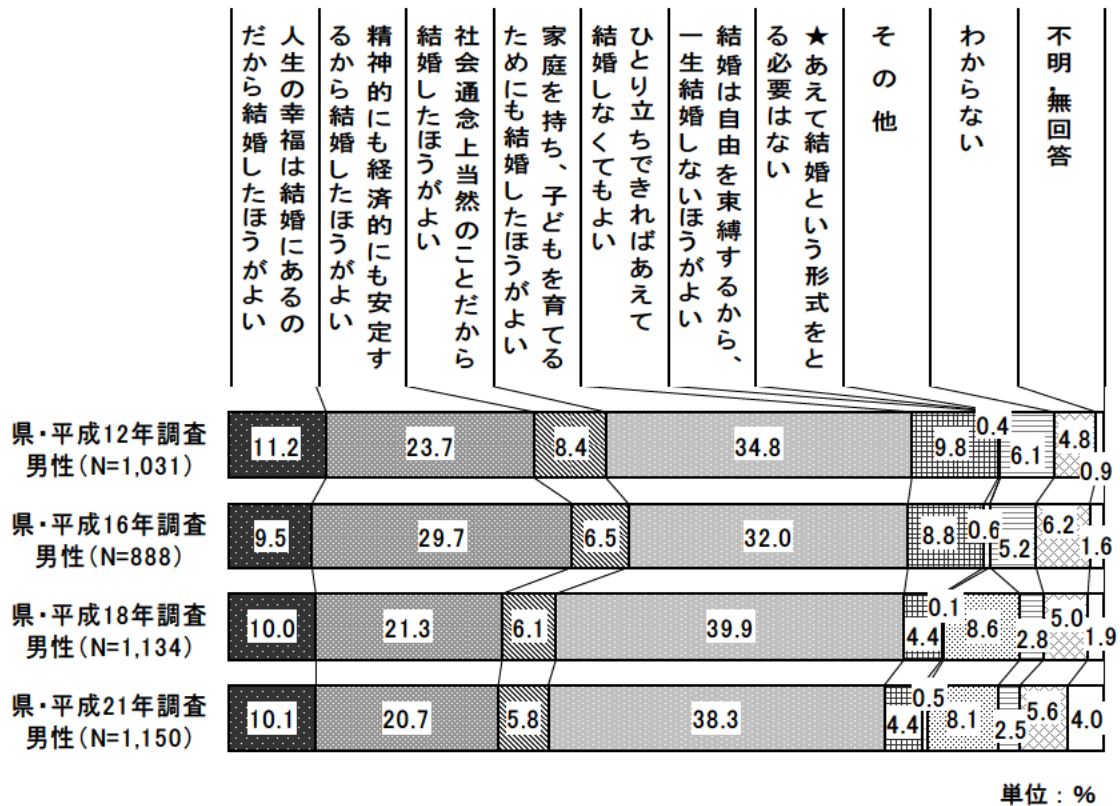
単位：%

注：★印の付いた項目（選択肢）は、平成18年調査と平成21年調査のみの項目（選択肢）です。

- 県の平成12年調査、平成16年調査、平成18年調査、平成21年調査を比較すると、「社会通念上当然のことだから結婚したほうがよい」、「ひとり立ちできればあえて結婚しなくてもよい」と答えた人の割合は、平成12年から平成21年にかけて減少しています。

「家庭を持ち、子どもを育てるためにも結婚したほうがよい」、「あえて結婚という形式をとる必要はない」と答えた人の割合は、平成18年に比べ平成21年の方が減少しています。

問7 結婚についての考え方 【男性】

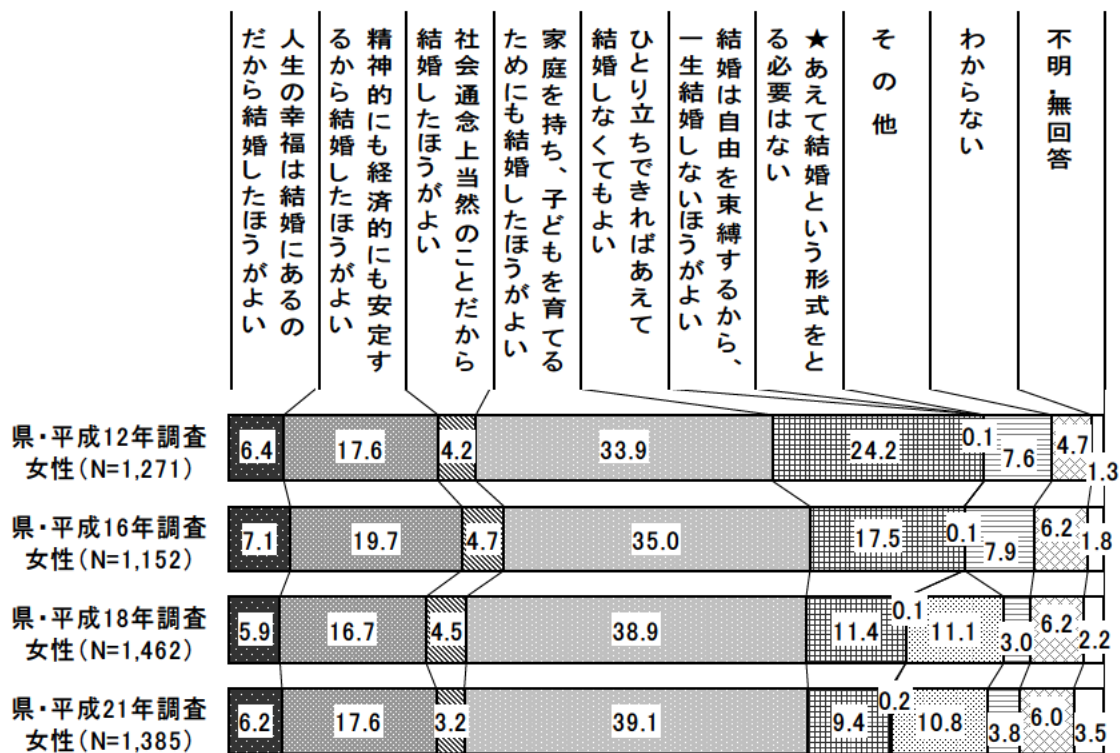


注：★印の付いた項目（選択肢）は、平成18年調査と平成21年調査のみの項目（選択肢）です。

- 県の平成12年調査、平成16年調査、平成18年調査、平成21年調査の男性を比較すると、「社会通念上当然のことだから結婚したほうがよい」と答えた人の割合は、平成12年から平成21年にかけて減少しています。

「精神的にも経済的にも安定するから結婚したほうがよい」、「家庭を持ち、子どもを育てるためにも結婚したほうがよい」、「あえて結婚という形式をとる必要はない」と答えた人の割合は、平成18年に比べ平成21年の方が減少しています。

問7 結婚についての考え方 【女性】



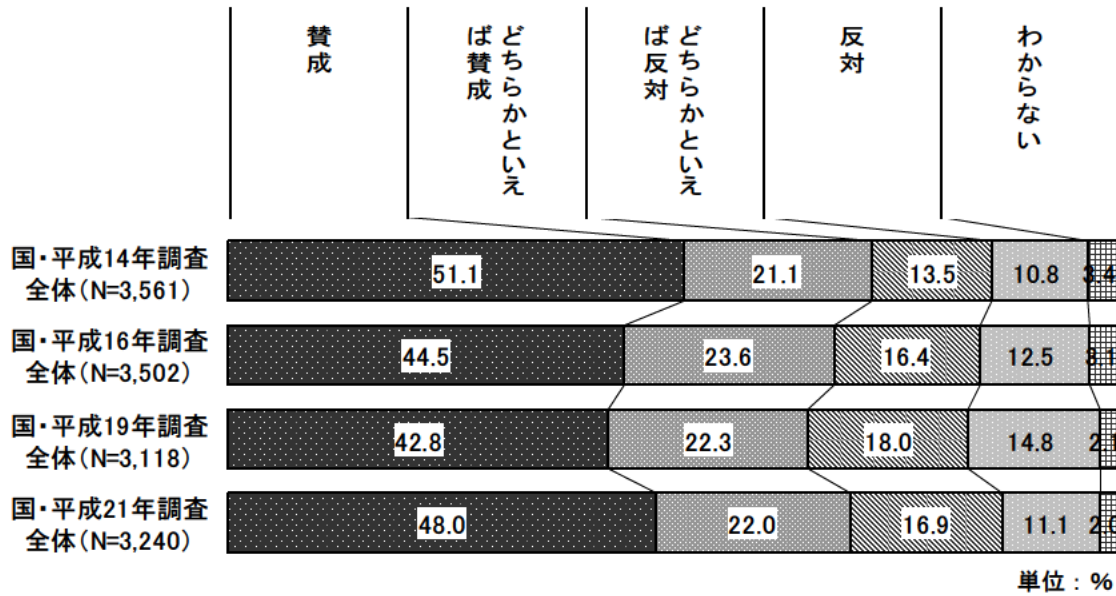
単位：%

注：★印の付いた項目（選択肢）は、平成18年調査と平成21年調査のみの項目（選択肢）です。

- 県の平成12年調査、平成16年調査、平成18年調査、平成21年調査の女性を比較すると、「家庭を持ち、子どもを育てるためにも結婚したほうがよい」と答えた人の割合は、平成12年から平成21年にかけて増加し、「ひとり立ちできればあえて結婚しなくてもよい」と答えた人の割合は減少しています。
「精神的にも経済的にも安定するから結婚したほうがよい」と答えた人の割合は、平成18年に比べ平成21年の方が増加し、「社会通念上当然のことだから結婚したほうがよい」と答えた人の割合は減少しています。

【参考】 ■男女共同参画社会に関する世論調査（内閣府）より

問 結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい 【全体】



- 国の平成14年調査、平成16年調査、平成19年調査、平成21年調査を比較すると、『賛成』と答えた人の割合は7割前後を占め、平成14年から平成19年にかけて減少していますが、平成21年では増加しています。

※『賛成』は、本来の選択肢の「賛成」と「どちらかといえば賛成」の割合を合計したものです。

(2) 離婚についての考え方

【分析のまとめ】

県調査では「結婚してうまくいかないときは離婚するのもやむを得ない」と考えている人の割合が約7割前後となっています。

「結婚してうまくいかないときは離婚するのもやむを得ない」という考え方について県調査の時系列変化をみると、『その通りだと思う』と答えた人の割合は平成12年から平成18年にかけては減少していましたが、平成18年に比べ平成21年の方がわずかに増加しています。しかしその割合は、各年ともに約7割程度を占めています。

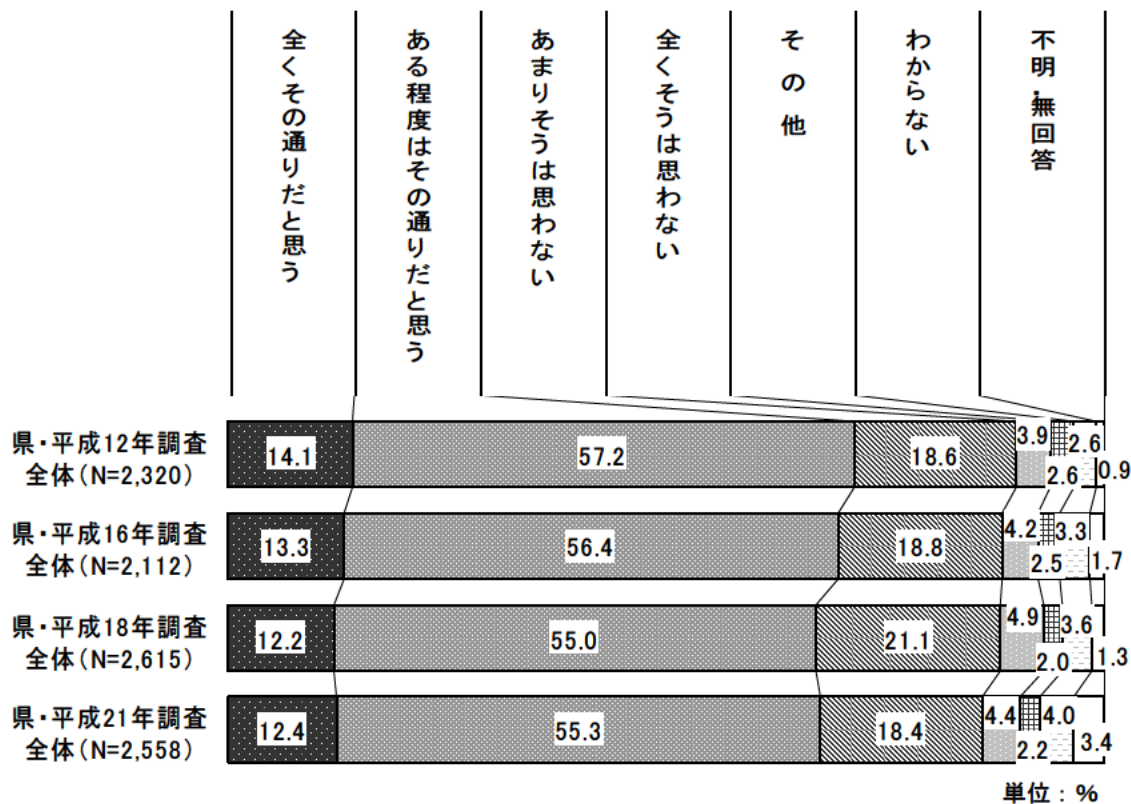
男女別にみると、『その通りだと思う』と答えた人の割合は、男性では平成18年に比べ平成21年の方が増加していますが、女性では減少しています。

国調査の類似の質問の結果では、このような考え方に対する賛否は半々となっているのに対して、県調査では、離婚するのもやむを得ないと考えている人の割合の方が高くなっています。

『その通りだと思う』は、本来の選択肢の「全くその通りだと思う」と「ある程度はその通りだと思う」の割合を合計したものです。また、『そうは思わない』は、「あまりそうは思わない」と「全くそうは思わない」の割合を合計したものです。以降のページも同様。

問8. 「結婚してうまくいかないときは離婚するのもやむを得ない」という考え方について、あなたはどのように思いますか。次の中から1つ選んで○印をつけてください。

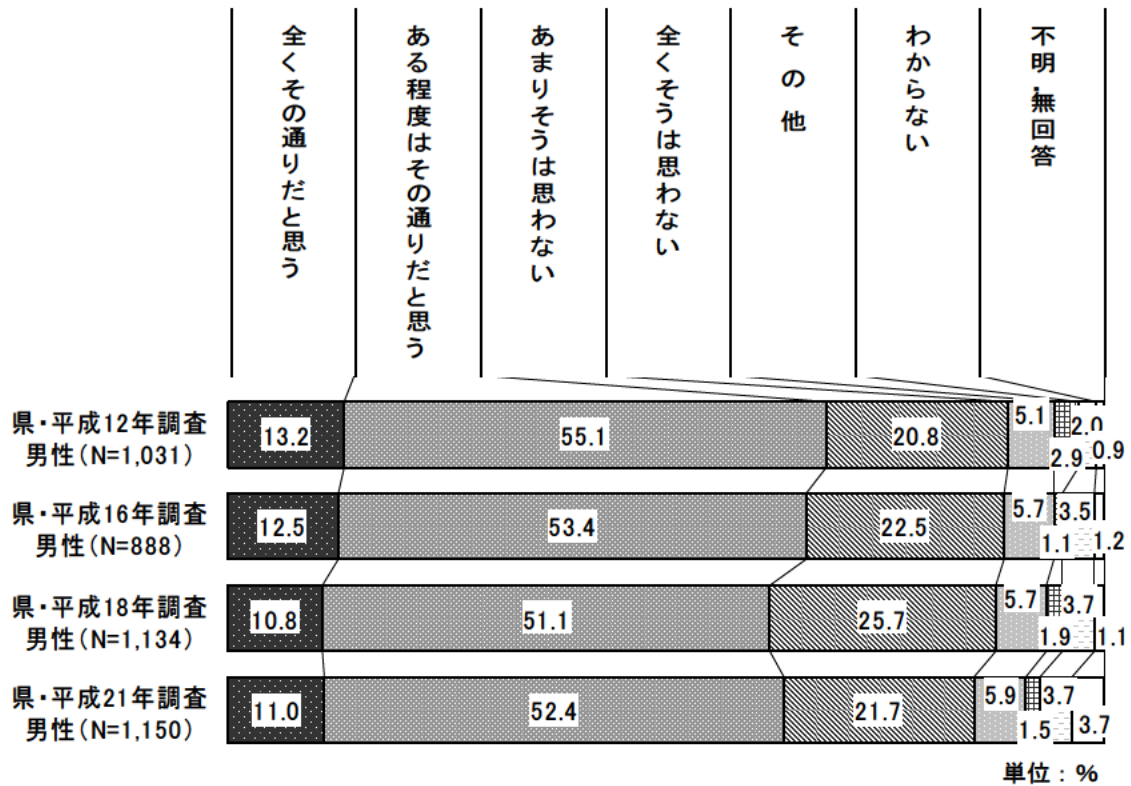
問8 離婚についての考え方 【全体】



● 県の平成12年調査、平成16年調査、平成18年調査、平成21年調査を比較すると、『その通りだと思う』と答えた人の割合は、平成12年から平成18年にかけて減少し、平成21年では若干増加しています。

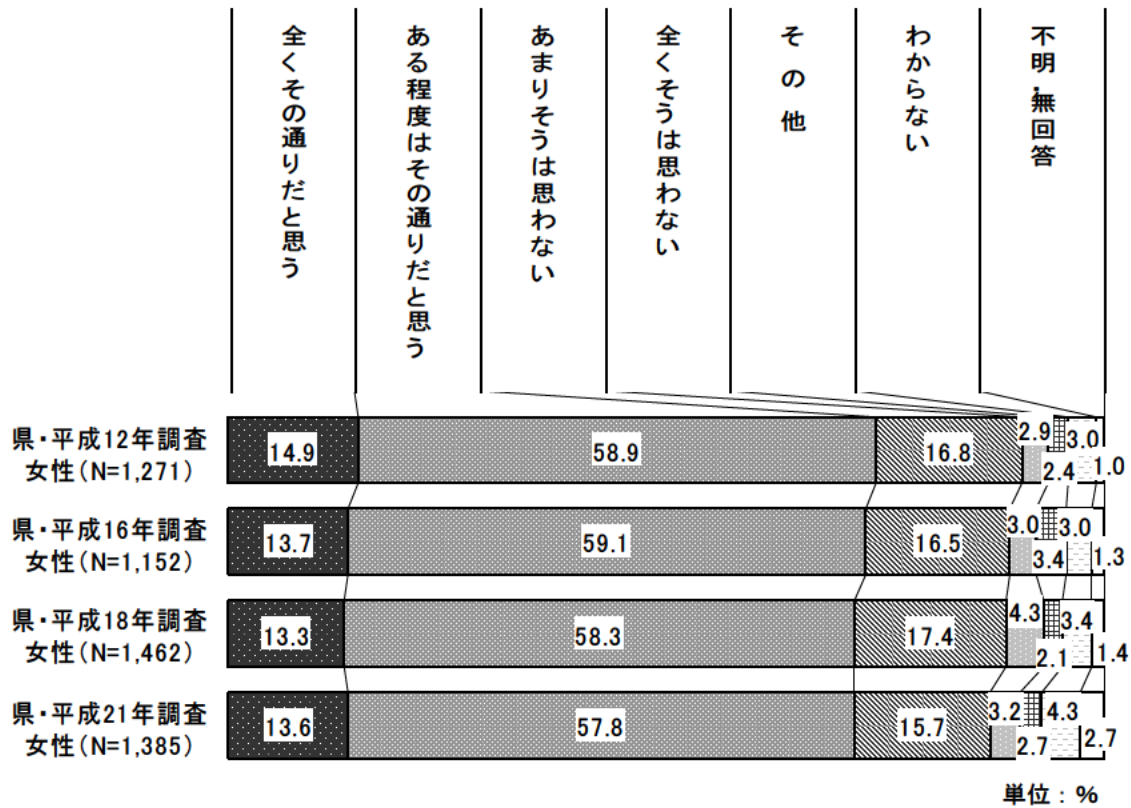
『そうは思わない』と答えた人の割合は、平成12年から平成18年にかけて増加していますが、平成21年では減少しています。

問8 離婚についての考え方 【男性】



- 県の平成12年調査、平成16年調査、平成18年調査、平成21年調査の男性を比較すると、『その通りだと思う』と答えた人の割合は、平成12年から平成18年にかけて減少していますが、平成21年では増加しています。
『そうは思わない』と答えた人の割合は、平成12年から平成18年にかけて増加していますが、平成21年では減少しています。

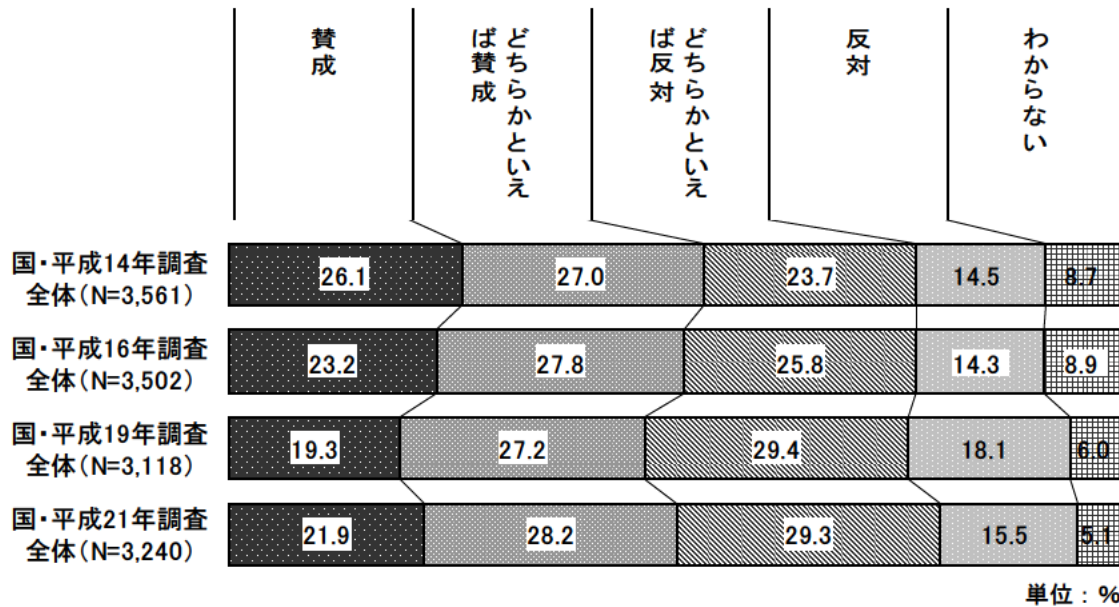
問8 離婚についての考え方 【女性】



- 県の平成12年調査、平成16年調査、平成18年調査、平成21年調査の女性を比較すると、『その通りだと思う』と答えた人の割合は、平成12年から平成21年にかけて減少しています。一方、『そうは思わない』と答えた人の割合は、平成12年から平成21年にかけて増減を繰り返して、平成21年では減少しています。

【参考】 ■男女共同参画社会に関する世論調査（内閣府）より

問 結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい 【全体】



- 国の平成14年調査、平成16年調査、平成19年調査、平成21年調査を比較すると、『賛成』と答えた人の割合は、平成14年から平成19年にかけて減少していますが、平成21年では増加しています。『反対』と答えた人の割合は、平成14年から平成19年にかけて増加していますが、平成21年では減少に転じています。

また、平成14年から平成16年では『賛成』と答えた人の割合が『反対』と答えた人の割合より高く、逆に平成19年には『反対』と答えた人の割合の方が高くなり、平成21年に再び『賛成』と答えた人の割合の方が高くなっています。

一方、県では結婚してうまくいかないときは離婚するのもやむを得ないという考え方について『その通りだと思う』と答えた人の割合が約7割程度みられ、各年ともに『そうは思わない』を大きく上回っています。

※『賛成』は、本来の選択肢の「賛成」と「どちらかといえば賛成」の割合を合計したものです。『反対』は、「どちらかといえば反対」と「反対」の割合を合計したものです。

(3) 結婚した男女の姓について

【分析のまとめ】

県調査では「夫婦は同じ姓を名乗るべきだが、どちらの姓に改めてもよい」が最も多いものの、その割合は減少しています。

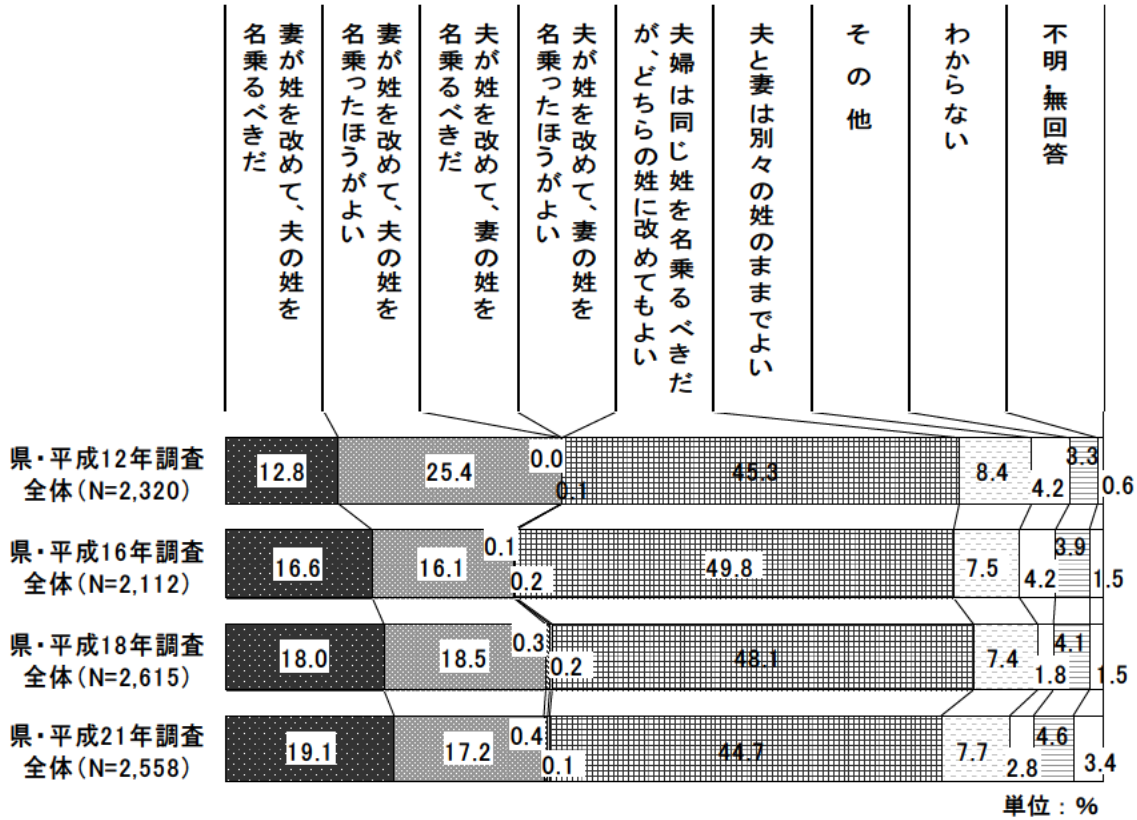
県調査では全体的に、「夫婦は同じ姓を名乗るべきだが、どちらの姓に改めてもよい」と答えた人の割合が最も多く、4～5割となっていますが、時系列変化をみると、その割合は平成16年以降減少しており、一方、「妻が姓を改めて、夫の姓を名乗るべきだ」と答えた人の割合が年々増加しています。

また、『夫が姓を改めて、妻の姓を名乗る』と答えた人の割合は低いものの、年々増加傾向にあります。

『妻が姓を改めて、夫の姓を名乗る』は、本来の選択肢の「妻が姓を改めて、夫の姓を名乗るべきだ」と「妻が姓を改めて、夫の姓を名乗ったほうがよい」の割合を合計したものです。『夫が姓を改めて、妻の姓を名乗る』は、「夫が姓を改めて、妻の姓を名乗るべきだ」と「夫が姓を改めて、妻の姓を名乗ったほうがよい」の割合を合計したものです。以降のページも同様。

問9. 結婚した男女の姓(あるいは名字)をどのようにしたらよいと思いますか。次の中から1つ選んで○印をつけてください。

問9 結婚した男女の姓について 【全体】



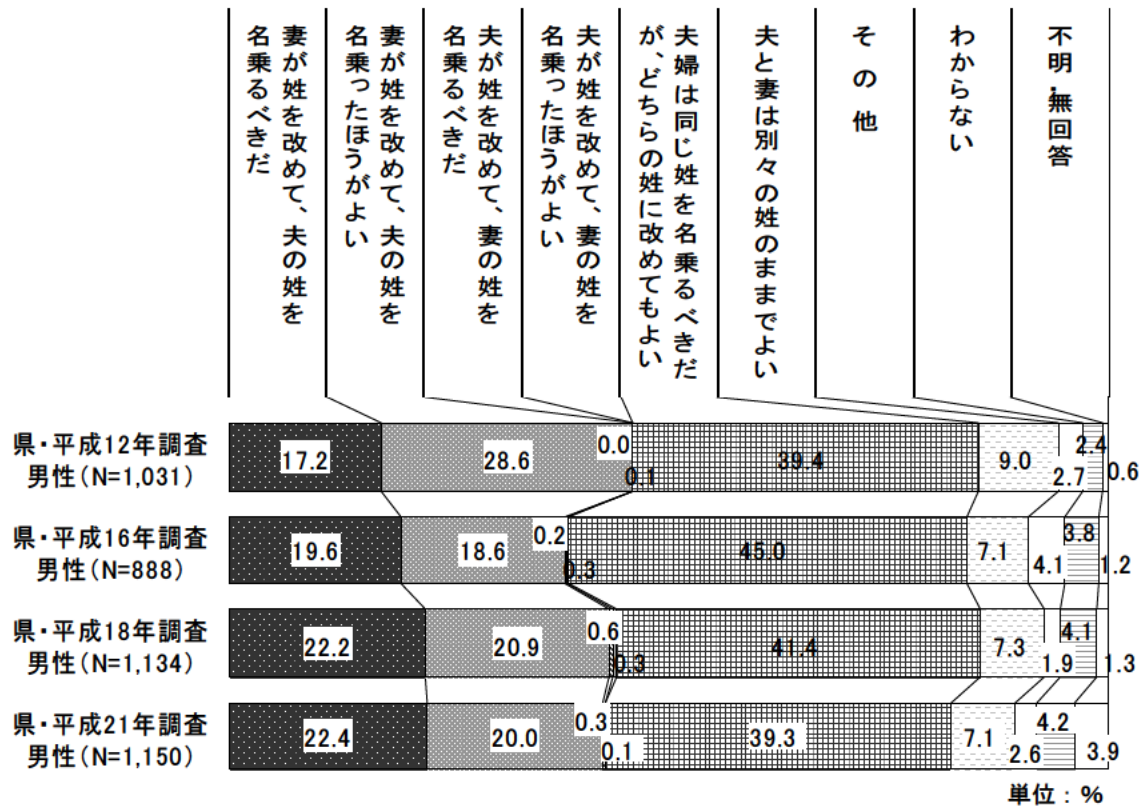
● 県の平成12年調査、平成16年調査、平成18年調査、平成21年調査を比較すると、「妻が姓を改めて、夫の姓を名乗るべきだ」と答えた人の割合は、平成12年から平成21年にかけて増加しています。

『妻が姓を改めて、夫の姓を名乗る』と答えた人の割合は、平成12年から平成21年にかけて増減を繰り返し、平成21年では若干減少しています。

『夫が姓を改めて、妻の姓を名乗る』と答えた人の割合は各年ともに1%以下ですが、増加傾向にあります。

「夫婦は同じ姓を名乗るべきだが、どちらの姓に改めてもよい」と答えた人の割合は、平成16年から平成21年にかけて減少しています。

問9 結婚した男女の姓について 【男性】



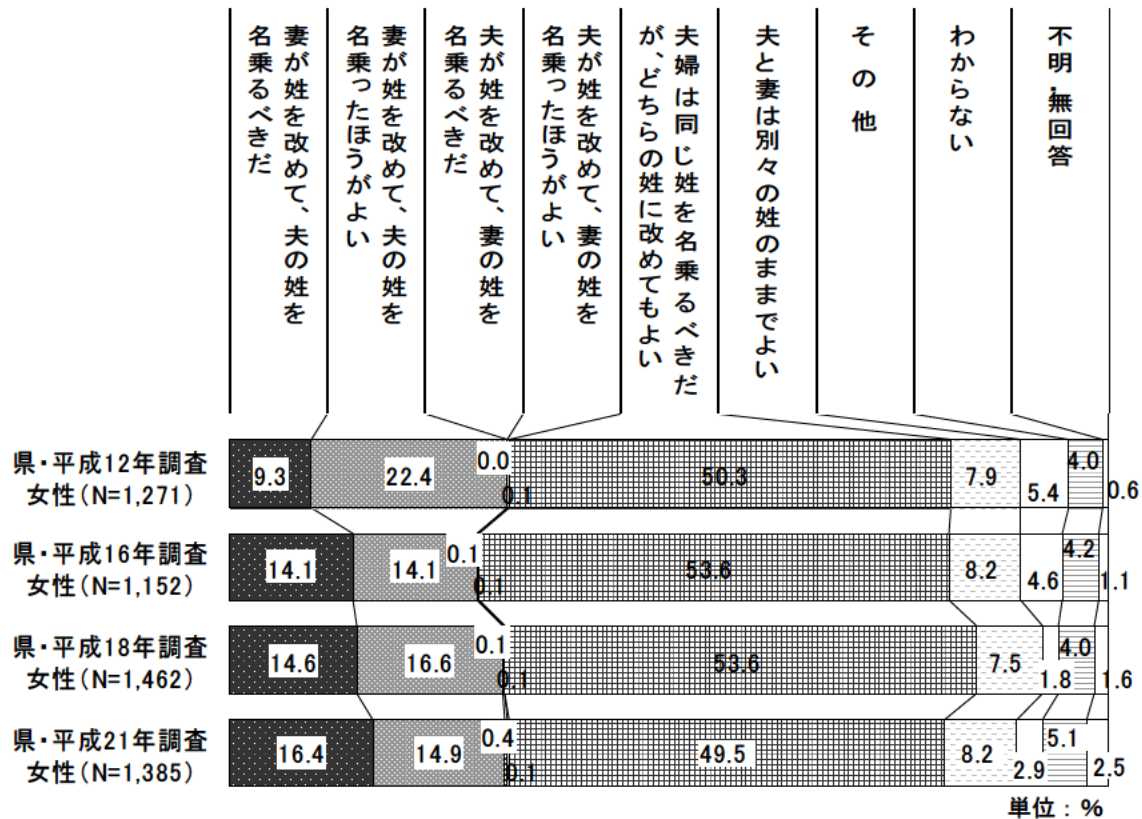
- 県の平成12年調査、平成16年調査、平成18年調査、平成21年調査の男性を比較すると、「妻が姓を改めて、夫の姓を名乗るべきだ」と答えた人の割合は、平成12年から平成21年にかけて増加しています。

『妻が姓を改めて、夫の姓を名乗る』と答えた人の割合は、平成12年から平成21年にかけて増減を繰り返し、平成21年では若干減少しています。

『夫が姓を改めて、妻の姓を名乗る』と答えた人の割合は、各年ともに1%以下ですが、平成12年から平成18年にかけて増加し、平成21年では減少しています。

「夫婦は同じ姓を名乗るべきだが、どちらの姓に改めてもよい」と答えた人の割合は、平成16年から平成21年にかけて減少しています。

問9 結婚した男女の姓について 【女性】



● 県の平成12年調査、平成16年調査、平成18年調査、平成21年調査の女性を比較すると、「妻が姓を改めて、夫の姓を名乗るべきだ」と答えた人の割合は、平成12年から平成21年にかけて増加しています。

『妻が姓を改めて、夫の姓を名乗る』と答えた人の割合は、平成16年から平成21年にかけて増加しています。

『夫が姓を改めて、妻の姓を名乗る』と答えた人の割合は各年ともに1%以下ですが、増加傾向にあります。

「夫婦は同じ姓を名乗るべきだが、どちらの姓に改めてもよい」と答えた人の割合は、平成16年から平成18年にかけては横ばい、平成21年では減少しています。